

全科協ニュース

Japanese Council of Science Museums Newsletter

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成8年3月15日発行(通巻第147号)

平成7年度第2回総会及び第3回研究発表大会開催 —東芝科学館を会場に—

平成8年3月6日(水)、神奈川県川崎市の東芝科学館において、平成7年度第2回全科協理事会及び総会が開催されました。

総会の出席館は68館、委任状提出館は112館で、審議の結果、平成8年度事業計画(案)及び平成8年度収支予算(案)並びに平成7年度予算の補正(案)について承認されました。

これによって、平成8年度は、研修事業の充実や連携促進事業としてこれまでの「巡回展等実施準備調査」を発展させる「共同企画展等調査研究」を実施すること及び「科学系博物館の資料情報のネットワーク化に関する調査研究」が終了することに伴い、新規に「科学系博物館における標本データベースの標準化に関する調査研究」を実施することなどが決定し、また、平成8年度で第13回目の実施となる「海外科学系博物館視察研修」は平成9年1月中旬の実施予定で、今回は、ヨーロッパの特に英国及びフランスの科学系博物館を重点的に視察することが決まりました。

以下に今回の総会において報告及び承認されました主な内容を紹介します。

全国科学博物館協議会加盟館園の状況

1. 館園数(平成8年度3月6日現在)

区 分	平成7年6月21日 第1回総会時	平成8年 3月6日現在	内 訳		増減
			入会	退会	
正 会 員	217	226	9	0	9
購読会員	22	23	1	0	1
維持会員	37	38	1	0	1
計	276	287	11	0	11

2. 入退会館園

入 会

越谷市立児童館ヒマワリ	正 会 員
松戸市文化ホール	〃
板橋区立熱帯環境植物館	〃
富山県立山博物館	〃
柏木博物館(長野県)	〃
岡山天文博物館	〃
長崎県立美術博物館	〃
出水市ツル博物館クレインパークいずみ	〃
琉球大学資料館	〃
榊原聖文	購読会員
株式会社学習研究社	維持会員

3. 正会員の設置者別内訳

区 分		館数 (%) 平成7年6月21日 第1回総会時	館数 (%) 平成8年3月6日 現 在	増減
国 公	1 国	6 (2.8)	7 (3.1)	1
	2 都道府県	45 (20.7)	47 (20.8)	2
	3 市 町 村	86 (39.6)	91 (40.3)	5
私	4 財団法人	25 (11.5)	25 (11.0)	0
	5 株式会社	36 (16.6)	37 (16.4)	1
	6 個 人	4 (1.9)	4 (1.8)	0
	7 社団法人	2 (0.9)	2 (0.9)	0
	8 そ の 他	13 (6.0)	13 (5.7)	0
計		217(100.0)	226(100.0)	9

平成 8 年度全国科学博物館協議会事業計画

1. 管理運営

①理事会

年 2 回開催する。第 1 回は平成 7 年度事業報告及び収支決算報告等について審議する。第 2 回は平成 9 年度の事業計画（案）及び収支予算（案）等について審議する。

開 催 時 期	会 場
第 1 回：平成 8 年 6 月中旬	国立科学博物館
第 2 回：平成 9 年 3 月上旬	調整中

②総 会

年 2 回開催する。第 1 回は平成 7 年度事業報告及び収支決算報告等について審議する。第 2 回は平成 9 年度の事業計画（案）及び収支予算（案）等について審議する。なお、総会時には、記念講演・施設見学会等を行う。

開 催 時 期	会 場
第 1 回：平成 8 年 6 月中旬	国立科学博物館
第 2 回：平成 9 年 3 月上旬	調整中

2. 事 業

(1) 研修事業

①博物館職員現職研修（ミュージアム・マネージメント研修）

博物館経営に関する資質向上を図るため、生涯学習時代における博物館の役割、博物館経営の視点等の講義、討議を行い、博物館経営者としての力量を高める。

実施時期：平成 8 年 11 月～12 月（4 日間程度）

参 加 者：40 名程度（正会員）

会 場：国立科学博物館等

備 考：文部省、国立科学博物館共催

②学芸員専門研修（アドバンスト・コース）

博物館の現状を幅広い観点から理解するとともに、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等について専門的、実践的な研修を行う。

実施時期：平成 8 年 11 月（5 日間程度）

参 加 者：30 名程度

会 場：国立科学博物館等

備 考：文部省、国立科学博物館共催

③海外科学系博物館視察研修

欧州の科学系博物館における展示技術、教育普及活

動等について視察研修を実施する。

実施時期：平成 9 年 1 月（2 週間程度）

参 加 者：20 名程度

訪 問 館：ロンドン自然史博物館など 6 館程度

(2) 連携促進事業

②研究発表大会

博物館活動の充実に資するため展示、教育普及活動、研究活動等に関する成果について、発表及び研究協議を実施する。

実施時期：平成 9 年 3 月上旬（予定）

参 加 者：正会員、維持会員

会 場：調整中

②共同企画展等調査研究

加盟館園の巡回展を含めた企画展等の実施状況について調査結果を報告書としてまとめるとともに、データベース化し、インターネット等を利用して加盟館園情報の相互活用を促進する。さらに、共同企画展等の実現に向けた方策について調査研究を行う。

実施時期：平成 8 年 4 月～平成 9 年 3 月

委 員：6 名程度

③科学系博物館における標本資料データベースの標準化に関する調査研究

科学系博物館が有する標本資料に基づいて、日本の生物等に関する全国的なデータベースを構築するため、データベースの標準フォーマット作成に関する調査研究を行う。

実施時期：平成 8 年 4 月～平成 9 年 3 月

委 員：12 名程度

④事業等に対する共催・後援等

加盟館園や関係機関等が実施する事業で、全科協の設置目的に適合し、適当と認められる事業に対し共催・後援等を行う。

(3) 広報普及事業

①機関紙の発行

機関紙「全科協ニュース」を年 6 回、A 4 版 12 ページ各号 1,400 部を発行する。なお、特集記事は、編集委員館が担当する。

②入会案内及び広報活動

新設の科学系博物館等に対して入会の勧誘を行うほか、全科協の活動について、広く広報を行う。

全国科学博物館協議会平成8年度収支予算

平成7年度予算の補正について

(総括表)

科 目	8年度予算額
一般会計事業費	19,215千円
特別会計事業費	0千円
(一般会計事業)	
収 入	
科 目	8年度予算額
(単位：千円)	
前期繰越金	2,223
会員会費	5,002
参加費	10,250
・研究発表大会参加費	250
・海外科学系博物館視察研修参加費	10,000
雑収入	740
広告料	720
預金利息	20
寄附金	1,000
収入合計	19,215
支 出	
科 目	8年度予算額
(単位：千円)	
理事会・総会費	640
博物館職員現職研修	257
学芸員専門研修費	223
海外科学系博物館視察研修費	10,600
研究発表大会費	899
共同企画展等調査研究費	418
標本資料データベースの標準化に関する調査研究費	3,232
全科協ニュース発行費	2,047
入会案内及び広報活動費	137
資料情報のネットワーク化に関する調査研究費	889
予備費	762
支出合計	19,215

1. 補正の理由

科学博物館における研究発表大会及び巡回展等実施準備調査並びに科学系博物館の資料情報のネットワーク化に関する調査研究に対する国庫補助金（文部省民間社会教育振興費補助金）の交付及び財団法人カメイ社会教育振興財団からの助成に伴う補正。

なお、カメイ社会教育振興財団からの助成は、アメリカのカリフォルニア大学古生物学博物館とニューヨークの自然史博物館における資料情報のデータベース化及びネットワークシステムの開発状況の調査を行うこととして、外国旅費の助成を受けたものである。



COLORATA

Venture Into The Past The Living Earth Communication For The Future

ミュージアムグッズの企画・デザイン

カロラータ株 〒111 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル3F
TEL03-3865-8110 FAX03-3864-4049

感動環境 創造会社です。

NOMURA

株式会社 乃村工 藝 社

本社：東京都港区芝浦4-6-4・電話03-3455-1171代 〒108

営業種目/ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティ
ング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

2. 補正の内容

第3回研究発表大会開催

(千円)

	事項・項目	当初予算 A	補正後予算 B	差引増減額 B-A
支	研究発表大会	888	1,822	934
	諸謝金	55	132	77
	旅 費	63	652	589
	印刷費	480	600	120
	通信費	121	248	127
	消耗品費	50	50	0
	会議費	119	140	21
	巡回展等実施準備調査	418	1,234	816
	旅 費	384	390	6
	印刷費	0	600	600
	賃 金	0	210	210
	会議費	34	34	0
	資料情報のネットワーク化に関する調査	889	5,484	4,595
	諸謝金	23	160	137
	旅 費	384	4,075	3,691
	印刷製本費	300	600	300
	通信運搬費	100	199	99
	賃 金	35	280	245
出	消耗品費	20	140	120
	会議費	27	30	3
	計	2,195	8,540	6,345
収 入	1. 国庫補助金	0	2,200	2,200
	2. 助成金	0	3,895	3,895
	3. 会費収入	3,823	4,073	250
	計	3,823	10,168	6,345

3月6日(水) 東芝科学館で開催された平成7年度第2回総会終了後、第3回研究発表大会に移り、まずはじめに、国立科学博物館の北尾次長から開会挨拶、文部省生涯学習局長谷川社会教育課長及び川崎市教育委員会館(たち)教育次長から来賓挨拶がありました。

研究発表の1番目として東芝科学館企画・技術課長の奥村 明氏が「情報メディアの取組みへの実践と課題」と題して情報メディアを支える基礎技術の発展や東芝科学館での情報メディア展示への取組みについて紹介し、情報メディア展示導入とその問題点や今後の課題に関する考察について発表しました。

つづいて、全科協資料情報のネットワーク化に関する調査研究委員会がその調査研究活動の紹介として「インターネットを活用した博物館活動のモデル事業」の発表を行いました。その一つは『ネットワークを利用したひとつのあそびー地球の大きさを測るー』であり、インターネットを活用した教育普及活動の一例をあげて、博物館の情報ネットワーク化がもたらす博物館活動の拡大・発展の可能性について提案したものです。もう一つは、『全科協ホームページについて』で、全科協全体のネットワーク化をインターネットを利用して構築することを目的とした全科協ホームページの作成状況について、実際にこの研究発表大会に出席した加盟館のうち全科協でホームページを作成した館について、作成画面をプロジェクターで映して報告しました。なお、この研究発表大会の開催中、東芝科学館の協力を得て、会場館内で全科協ホームページ等が見ることができるようインターネット等に関するモデル展示のコーナーを設けてデモンストレーションを行いました。

第2日目は、まず、山口県立山口博物館学芸員佐伯陽一氏が「巡回展の現状と課題」について、その背景として全科協における取組みの経緯にふれ、また、自館で実施した巡回展を例にあげながら、巡回展のもつメリット・デメリットを検証しその問題点を明らかにして、今後の巡回展の実施に向けた方策について述べました。また、発表内容について活発な質疑応答がありました。

次に、ミュージアムパーク茨城県自然博物館主任学芸員國府田良樹氏が「ミュージアムパーク茨城県自然博物館における企画展の開催について」と題し、同館における展示

美術

は く 製

〈各 種 生 物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限 東洋近代美術研究所

製作所 〒272 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎0473-37-5678

☎0473-37-5883

FAX 0473-38-1978

本 社 〒272 千葉県市川市国分5-3-25

☎0473-74-1564

及び企画展開催のコンセプトについて述べたあと、実際に同館で行われた第3回企画展『絶滅動物からのメッセージ展』を紹介し、その企画から開催までのプロセスにおける問題点について詳しく発表しました。

その後、参加者が5班にわかれて、それぞれ同館のコンパニオンの案内で、会場館である東芝科学館の特色ある展示を中心に見学しました。

午後の部に入り、記念講演としてクレインパークいずみ出水市ツル博物館長で元東北大学総長の加藤陸奥雄先生が『博物館随感』と題して、日頃、博物館に思う気持ちと博物館学芸員の在り方について、博物館法を引きながら、また、大学等研究機関における研究者と対比しながら話しました。

記念講演終了後、研究協議に移り、国立科学博物館教育部長大堀 哲氏から「博物館の活動と学芸員、ボランティア」をテーマに①なぜ博物館にボランティアか、②ボランティアに何を期待するのか、③博物館におけるボランティアの位置づけをどうするか、④学芸員との役割分担はどうするか、⑤ボランティアの運営、組織化をどうするか、について問題提起があり、参加者が4つのグループに分かれて分科会を開きました。

その後全体会を行い、大堀教育部長の司会でそれぞれのグループごとに討議された内容を持ち寄り、各分科会で進行役をつとめた名古屋市科学館の三輪克氏、多摩六都科学館の吉川捷彦氏、盛岡市こども科学館の菊池広親氏、斎藤報恩会自然史博物館の斎藤温次郎氏が代表してそれぞれ発表し、それを基に参加各館のボランティア活動の取組みの実際や活動の問題点について討議がありました。最後に、司会者である大堀教育部長が討議内容のまとめを行い、ボランティア活動への取組みの方策等について述べました。

翌第3日目の3月8日（金）の施設見学は、川崎地区の川崎市青少年科学館、市民ミュージアム、日本民家園、横浜地区の神奈川県立青少年センター、神奈川県立歴史博物館、横浜こども科学館、三菱みなとみらい技術館、小田原地区の神奈川県立生命の星・地球博物館の中から、参加者の選択見学として実施されました。

〈全科協ホームページ開設〉

(<http://www.kahaku.go.jp/JCSM/index.html>)

全科協ホームページが開設されました。このホームページの中には館園検索マップが設けられており、全国地図、地域別館名リストから探すことができるほか、現況調査データの中の所在地域、館種、所蔵標本資料の分野、調査研究活動の分野からも館園の検索ができる構成になっています。

各館ホームページの掲載内容は、外観イメージ写真、館のアピール文、アクセスのための地図、特色ある展示物の写真及び説明文、開館時間・休館日・入館料金等です。各館についての詳しい情報は、「現況調査データベース」及び「企画展実施事例データベース（準備中）」によって得ることができます。

この全科協ホームページの準備及び全科協データブック改訂版の作成のために、平成7年12月下旬に加盟館園に対し「現況調査」「企画展実施事例調査」及びホームページ資料の回答及び提供をお願いしました。作成された各館ホームページは3月に開催された研究発表大会で紹介されました。

今後、ホームページの作成希望がありましたら事務局までご連絡ください。

各館ホームページフォーマット

[館名]

外観 イメージ

[館のアピール文]

アクセス

地図

●住所
●交通

特色ある展示

展示物 展示物

[展示物の説明文] [展示物の説明文]

ご利用案内

●開館時間
●休館日
●入館料金
●問い合わせ先

 全科協のホームページへ

全国科学博物館協議会

Japanese Council of Science Museums

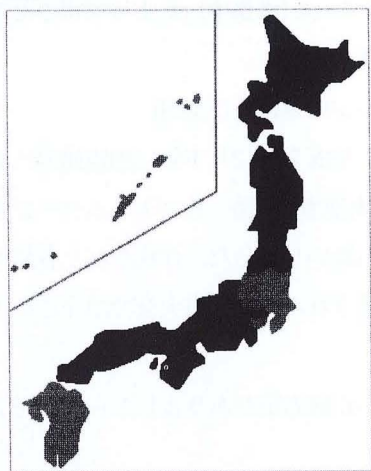
全科協について

全国科学博物館協議会（全科協）は、自然史及び理工系の科学博物館、自然史及び理工部門を持つ総合博物館、科学館、動物園、水族館、植物園、プラネタリウム等が相互の連絡協調を密にし、博物館事業の振興に寄与することを目的として、昭和46年（1971年）に発足しました。

現在、全国約230館の博物館、科学館及びその準備室等が加盟し、他に維持会員として博物館等の展示・施設・機器に関わる製造会社加盟しています。

主な事業として、「研究発表大会」の開催、「海外科学系博物館視察研修」の実施、文部省と国立科学博物館との共催で行う「ミュージアム・マネジメント研修」及び「学芸員専門研修アドバンス・コース」の実施のほか、平成7年度は「科学系博物館資料情報のネットワーク化に関する調査研究」、「会員館の企画展等に関する調査」等現代的課題に関する調査研究活動も実施しました。

MAP 館検索マップ



[北海道] [東北] [関東] [東京] [北陸]
[中部] [近畿] [中国] [四国] [九州] [全国]

加盟館園の検索

企画展の検索（準備中）

主な刊行物

「全科協ニュース」（隔月刊）
「全科協データブック」（最新版を準備中）
「企画展・共同企画展事例集」（同上）
「資料情報のネットワーク化に関する調査研究報告書」（平成7年3月）
「新メディアの活用・開発に関する調査研究報告書」（平成7年3月）

加盟館園の検索

あなたの行きたい博物館を探してみましょう。

探し方をえらんだら<さがす>ボタンをクリックしてください。

- ▶ 探す方法：
- ☐ 名前でさがす
 - ☒ 種類や分野でさがす
 - ☐ 設備でさがす
 - ☐ 活動内容でさがす

▶ 地域を選びますか？

- | | | | | |
|------------------------------|--------------------------------|---|------------------------------|------------------------------|
| ☐ 全 国 | ☐ 北 海 道 | ☒ 関 東 | ☐ 東 京 | ☐ 北 陸 |
| ☐ 中 部 | ☐ 近 畿 | ☐ 中 国 | ☐ 四 国 | ☐ 九 州 |

さがす

とりけし

探す地域：関東

探す方法：種類や分野でさがす

探す条件をえらんだら<さがす>ボタンをクリックしてください。

- ▶ 博物館の種類：
- | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|---|--------------------------------|
| ☐ 指定なし | ☐ 総合博物館 | ☒ 科学博物館 | ☐ 美術博物館 |
| ☐ 野外博物館 | ☐ 植物園 | ☐ 動物園 | ☐ 動植物園 |
| ☐ 水族館 | ☐ 天文台 | ☐ その他 | |

- ▶ 標本資料の分野：
- | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| ☐ 動物学 | ☐ 魚類 | ☐ 昆虫学 | ☐ 植物学 |
| ☐ 菌学 | ☐ 地学 | ☐ 古生物学 | ☐ 人類学 |
| ☐ 物理学 | ☐ 化学 | ☐ 天文学 | ☐ 宇宙科学 |
| ☐ 建築・土木 | ☐ 機械工学 | ☐ 電気工学 | ☐ 農林学 |
| ☐ 水産学 | ☐ 運輸・交通 | ☐ 通信・放送 | ☐ その他 |

- ▶ 調査研究活動の分野：
- | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| ☐ 動物学 | ☐ 魚類 | ☐ 昆虫学 | ☐ 植物学 |
| ☐ 菌学 | ☐ 地学 | ☐ 古生物学 | ☐ 人類学 |
| ☐ 物理学 | ☐ 化学 | ☐ 天文学 | ☐ 宇宙科学 |
| ☐ 建築・土木 | ☐ 機械工学 | ☐ 電気工学 | ☐ 農林学 |
| ☐ 水産学 | ☐ 運輸・交通 | ☐ 通信・放送 | ☐ その他 |

▶ 都道府県を選びますか？

- | | | | |
|---|------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| ☒ 指定しない | | | |
| ☐ 茨城県 | ☐ 栃木県 | ☐ 群馬県 | |
| ☐ 埼玉県 | ☐ 千葉県 | ☐ 東京都 | ☐ 神奈川県 |

さがす

とりけし

○ 種類や分野でさがす

探す地域：関東

博物館の種類：科学博物館

標本資料の分野：動物学 植物学

調査研究活動の分野：動物学 植物学

この地域の69館のなかで、条件に該当する加盟館園は、以下の7館です。

▶ 該当館園一覧

- ミュージアムパーク茨城県自然博物館
- 埼玉県立自然史博物館
- 我孫子市鳥の博物館
- 国立科学博物館
- 東京都高尾自然科学博物館
- 江戸島水族館
- 神奈川県立生命の星・地球博物館

海 外 ニ ュ ー ス

安井 亮 (ハイフォン)

特集・1995年にオープンした米国の科学館

米インベンチャー・プレース Inventure Place

米商務省特許局と全米知的所有権保護協会によって、米国の発明家の偉業を紹介する科学館が、米国のタイヤ産業の中心地であるオハイオ州アクロン市にオープンした。今まで米国では、偉人の業績を賛える博物館は記念館の域を出ることはなかったが、同館の大きな特徴はハンズ・オン型科学館であることだ。同館では、トーマス・エジソンからアレクサンダー・G・ベルまでを含む米国の127人の発明家による発明品(大部分が特許品)を分かりやすく最新の展示技術で紹介している。実験型の展示には、実験水槽を使ったダムや運河のロックの建設シミュレーションや最新のレーザー技術を使った音響装置等が含まれる。ターゲット観客は主に青少年であるが、科学技術について関心が高い大人の発明家、工科系の学生や技術者のリピーティングにも力を入れており、旋盤、フライス盤等が多数用意されている。同館のもう一つのユニークな特徴は、米国の若い世代の中で独創的なアイデアの創出を奨励するために、工科系学生を対象としたコンペティションを毎年開催することだ。このイベントは米国の代表的な化学品メーカーのBFグッドリッチ社がスポンサーになっている。ガラスとスチールをふんだんに使った5階建てのユニークな建物はアクロン市の中心街にあり、同市の新しい目玉になっている。建築延べ床総面積：約7,000平米、展示室面積：約2,000平米。総工費：38百万ドル。約35万人の年間入館者数が想定されている。正式名称：国立発明家偉人館。

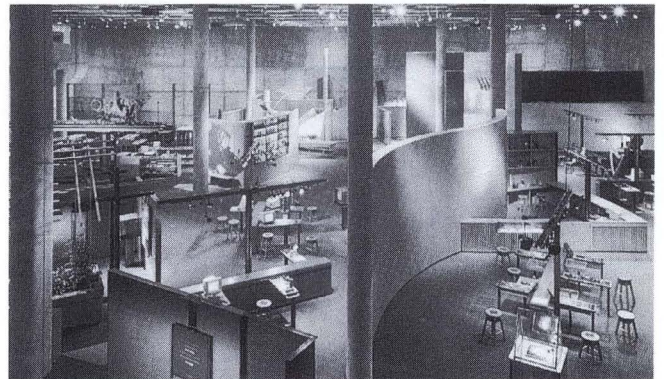
米サイエンス・セントラル Science Central

米国で新しくオープンする博物館や科学館は、みな建物も新築だとは限らない。インディアナ州フォートウェインにオープンしたサイエンス・セントラルは、市内の古くなった火力発電所を再利用したものだ。火力発電所の吹き抜け空間は展示空間にはもってこいのようだ。展示では、数学と科学の原理を、実験型の展示装置で分かりやすく紹介している。同館の大きな特徴は、州政府の協力で科学教育情報センターを併設したことだ。ここでは学校教師を対象に、教材や図書等の貸出の他に、具体的な相談支援も行なっている。隣接のオハイオ州とミシガン州からも多くの教師がこのセンターを利用しに来館している。また、カナダ

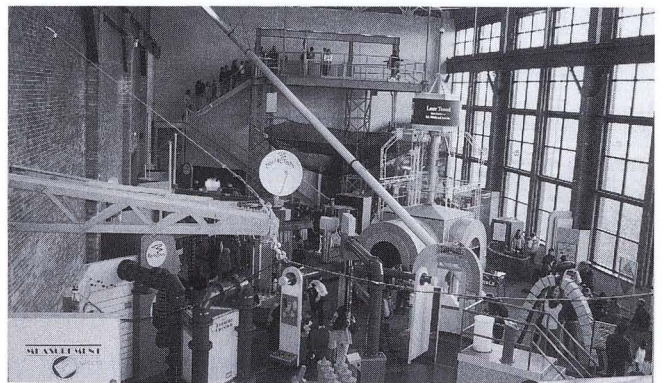
のサイエンス・ノース科学館と同じ思想で運営されているスワップ・ショップもある。ここでは、石、貝殻、松毬等を自由に物々交換できるところだ。運営は高校生のボランティアが行なっている。建築延べ床総面積：約5,850平米、展示室面積：約2,200平米。総工費：9百万ドル。約30万人の年間入館者数が想定されている。

その他の新設館

Discovery Center of Springfield(ミズーリー州スプリングフィールド)、Creative Discovery Museum(テネシー州チャタヌーガ)、Harmon Science Center(オクラホマ州タルサ)、Edgerton Educational Center(ネブラスカ州オーロラ)、SMART Discovery Center(ペンシルバニア州ベスレヘム)、Science & Discovery Center(ニューヨーク州コーニング)、Brevard Museum of Science(フロリダ州メルボルン)、Science Center of East Connecticut(コネチカット州ニューロンドン)、Lake Champlain Basin Science Center(バーモント州バーリントン)。



米インベンチャー・プレース(オハイオ州)



米サイエンス・セントラル(インディアナ州)

*ハイフォン：Fax. 03-3496-8212

E-mail. QFH03327@niftyserve.or.jp

平成 7 年度全科協海外科学系博物館視察研修報告

全科協では、毎年、海外の科学系博物館における展示技術、教育普及活動等に関する知識を深め、博物館活動の参考と博物館職員等の資質の向上に資するため、視察研修を実施しています。

第12回目の平成7年度海外科学系博物館視察研修は、平成8年1月12日（金）から25日（木）までの14日間、米国及びカナダの太平洋側の6都市それぞれ1館ずつを訪問する日程で実施されました。今回は正会員から18名、維持会員から9名、購読会員から2名の計29名が参加し、添乗員1名を加えた合計30名の過去最大の視察団となりました。

今回の視察研修では、北米西海岸の大都市だけでなく地方都市の科学系博物館も対象に、それぞれ特色のある自然史系、科学技術系及び総合博物館を訪問することができました。私たちが見た博物館は、その国を代表する入館者を圧倒するような世界的な規模の博物館の姿ではなく、まさに我々日本の博物館と等身大の、それぞれ悩みをもちながらも、地域と密着し活発にまた創造的に活動している博物館の姿でした。また私たちが案内説明して下さった各館の職員の方々に自信と使命感が強く感じられ、その姿こそが私たちが最も参考にしなければならないものだと思われました。

この視察研修を通じて感じた印象の一つとして、米国の地域の人々及び入館者の博物館に対する考えかたや意識にわが国との大きな違いがあるのではないかとことです。それは、あたかも大リーグなど米国プロスポーツのフランチャイズ制と同じく「自分たちの博物館」として考えられているように思えたことでした。たとえば、多くの博物館及び科学館等は非営利の団体として運営されているのですが、政府など行政からのサポートだけでなく、むしろ主として入館者からの収入及び市民や地域の企業などの寄附で維持・運営されていて、地元の学校との密着した連携を含め子供たちをはじめとして多くの人々に日常的に活用されていました。また、ボランティアで活動する人々も職員と同じように責任が与えられ、担当する分野も職員と同様の仕事が与えられている点では、ボランティア自身の意識のうえで、自分のいきがいや生涯学習の面よりも「自分たちの博物館」への奉仕の意識の強さが感じられました。

またもう一つの印象として、今日の重要な問題に即応す

る姿勢でした。特にエイズ問題や身近な環境問題などは、こどもたちが興味を持つようにゲーム性を取り入れるなど展示の操作性に工夫が施されていることや、また、価値観の定まっていない問題では、見る側に判断を委ねる方法が取られるなど展示テーマの取り上げ方や展示手法に柔軟さがあることが感じられました。

さらに、今回の視察研修では、新メディアといわれる先端技術を活用した展示がどの程度展開されているか見ることができました。

結論として、その取組み方は自然史系と科学館系では考え方に違いがあり、自然史系ではあくまでも実物標本が主であり、展示解説など伝達すべき情報の提供に活用していくべきであるという考えかたを示し、一方で、科学館系では積極的に展示に活用され、すでにオムニマックス等の大型映像装置は各館で導入され、各館の目玉的存在になっていました。こうした現状は日本とかわらず、さらに、各館とも参加体験型展示が主であるところからコンピュータを活用した操作型展示、バーチャルリアリティ装置や各種のシミュレータ装置なども積極的に活用されている印象を持ちました。

しかし、バーチャルリアリティなどは、装置そのものが入館者の興味を引く対象としての展示であり、その技術を利用してどういう内容のものを体験させるかまで踏み込んだものには至っていない印象を受けたのは、この分野の技術がまだ発展途上の段階で、現段階としてはハードとしての限界があるということと、ソフトの開発がこれからの問題になっていることがいえるのではないかと思います。

今回の視察研修では、以上のことについて概観することができましたが、以下では、各訪問館の特徴的なことについて取り上げていきたいと思います。

①エクスポラトリウム（サンフランシスコ）

ここは、全科協海外視察研修でも過去6回も訪問している程、世界的に有名な参加体験型科学博物館で、その思想は日本の博物館・科学館にも大きな影響を与えています。

何とんでもここでの特筆すべき点は、650点から700点を数える展示物の全てがオリジナルであること、それらの展示物が入館者から見えるワークショップ（ワークショップ自体が大きな展示と考えられている）で考案され、試作

されると入館者に試してもらい、その反応を基に改善されながら完成すること、教育普及活動として地域の学校システムと深く関わり、学校と連絡を密にして運営されていること、特に学校の先生の教育がメインになっており、教材の提供も行っていること、また考案された展示物の中には学校で利用されるものもあることがあげられます。

また、館内の説明者に高校生を活用していて、それは、彼らの専門知識習得のための教育の場になるだけでなく、彼らにとって多少の賃金を得られ、さらに学校の単位に加算される制度であり、ボランティア活動とはまた違う博物館教育普及活動の取組みの多様さを感じました。

地域の学校教育と密接な関係を持ち、こどもたちの科学教育に力を入れているとのことですが、年間63万人の入館者のうち70%が18才以上であるとのことでした。

エクスポラトリウムは、非営利の民間団体であり、財政運営面ではかなりの努力をされているようで、収入は、入館料のほかミュージアムショップの売上、展示の貸出、会場貸し、その他行政からの補助、市民・企業等からの寄附からなり、ワークショップの機械などは軍の払い下げなどを再利用しているとのことでした。

しかし、展示の制作活動等に館外の科学者・技術者及び芸術家などのアイディアが取り入れられるネットワークを形成していることや、また、館内の装飾のない質実な光景には、この館の運営思想を知らされる思いがしました。

②バンクーバー博物館（バンクーバー）

サンフランシスコから一気にカナダのバンクーバーへ飛び、そこからまた米国に入り、西海岸を南下する旅程でしたが、バンクーバーでは、バンクーバー博物館を訪問しました。

バンクーバー博物館は、バンクーバー博物館協会が運営する歴史・考古・地理・自然科学の総合博物館であり、調査研究より展示を中心に活動している博物館であるとの説明を受けました。

科学系の集まりである私たちが館内を見学した印象では、現地インディアン（イヌイット）や開拓当時の考古・民族・歴史に関する展示の規模に比べ自然科学に関する展示の規模が小さく感じました。

現在、バンクーバー博物館の活動は停滞時期にあるようで、館長以下職員からの説明にもその悩みが吐露されていました。その内容は、展示が総合的で調査研究活動に大きなテーマがないので標本収集がしにくい状況になっている

こと、ここ10年間で人口が減少しているため、入館者数も減少していること、財政的には、市から2/3、州から1/6、連邦政府から1/6の割合でなりたっているが、収入が期待どおり見込めない（特に連邦政府からはあてにできない）状況にあり、スタッフ数も減少している（現在29名）状態におちいっていることなど、身につまされる話で、バンクーバー200万都市の美しい市街のイメージからは意外な思いがしました。

③パシフィック科学館（シアトル）

カナダ・バンクーバーから陸路で国境を越えて再度米国に入った私たち一行は、次の訪問先であるパシフィック科学館のあるワシントン州シアトルへ向いました。

パシフィック科学館は、非営利の団体として運営され、収入の90%が入館料、ミュージアムショップ、レストラン等の自館の活動での収入であり、シアトル周辺300万人の人口に対し入館者数が年間140万人の全米でも有数の科学館の一つです。

展示には、有名な企業名が掲げられる寄附によるものと思われる展示ブースもありますが、その内容はバーチャルリアリティや電子ミュージアムのモデル的な装置も取り入れた先端的な内容であり、また全体的に展示の解説文が少ない、実際に触ったり試してみる体験型科学館です。特にこどもたちを対象にした教育プログラムが充実していました。

また、「サイエンスカーニバル」というの名のミニ科学館を作り、ワシントン州の学校などを年延べ300日巡回する事業を行っていて、成功をおさめているそうです。

さらに学校の先生やボランティアのトレーニングを積極的に行い、米国内を中心に展示物の貸出事業も実施し、また、他のサイエンスセンターへの指導的役割を果たしているなど活発な活動を行っています。

特にユニークなこととしては、ディレクターを含めたスタッフが入館者を観察したりアンケートを取るなどして常に展示の反応に気を配り、展示が気に入らない入館者には、入館料を返すシステムがあるということです。なお、ボランティアも職員と同様に勤務内容が評価され、悪い場合にはクビになるというきびしさには驚きました。

④オレゴン科学産業博物館（ポートランド）

シアトルからオレゴン科学産業博物館のあるポートランドへ向かう途中初めて雪に見舞われましたが、市内は雪ではなく雨模様の天気が私たちを迎えてくれました。

設立して50年の歴史があるオレゴン科学産業博物館もまた非営利団体として運営されていて、現在では参加体験型展示に重点をおく科学館ですが、参加体験というよりもさらに踏み込んで自分自身で考えて展示物を動かすあるいは実際に自分で考えて一からものを作るなど思考体験の傾向の強い展示が多く見受けられました。その中の一つに、実際に紙飛行機を作って飛ばすコーナーがあり、紙飛行機がどのように飛ぶかをコンピュータでシミュレートすることができ、自分の作った紙飛行機で飛行原理を理解する展示がありました。

また、名称が科学産業博物館になっていますが、生命をテーマにした展示にも迫力があり、臓器提供に関する展示や母親の中で胎児が成長する過程が実物の標本で展示され、さらにプラスティネーションの胎児標本もあるなど、昨秋、国立科学博物館で開催された特別展「人体の世界」を思い出しました。

それぞれの展示室にラボラトリーが設けてあり、展示を見学して興味をもった子どもたちがさらに詳しい指導を受けられるようになっていました。また、教育プログラムの一つとして、毎年サイエンスキャンプを実施していて、今年の夏にはポートランドが札幌市と姉妹都市にある関係から、日本語によるキャンプを実施する予定だそうです。

ここにも、オムニマックスがあり、3か月ごとに作品を交換して上演しているそうですが、ソフトの更新については、日本の科学館と同様の悩みがあるようでした。



オレゴン科学産業博物館入口ホールにて

⑤サンタバーバラ自然史博物館（サンタバーバラ）

サンタバーバラ空港に降り立った私たちが目にしたもののは木造平屋建ての空港施設でした。扉一枚で外に出てしまい、西部劇のバーを彷彿させるものでした。米国では飛行機がまさにバス路線のように発達していることを実感しま

した。サンタバーバラは、ロサンゼルスから2～3時間の距離にある人口3万人のリゾート地で、街路もヤシの木の温暖で自然豊かな町です。

創立以来80年というサンタバーバラ自然史博物館は、その活動が地域的な博物館でありサンタバーバラの山、海、湾、島の自然に重点をおき、そこから地球的視野で自然を考える展示や教育活動を進めています。

展示内容は、ジオラマが中心ですが、中には1920年代に製作されたものも、今なお修理をしながら展示されていました。また、その出来栄も皆見事で、浜辺の海鳥の生態を再現しているジオラマでは、どう見ても飛んでいる鳥を吊っているピアノ線が見えないほどでした。また、コンピュータを使い、自分で検索した展示解説を、関連する画像とともに見せる装置や立てたガラス面に昆虫標本2,000種類を展示し、入館者が自分の操作でカメラを縦横に移動して見たい昆虫を拡大して見れる装置があるなど、外観から想像した古びた博物館のイメージはなく進んだ一面もみることができました。

この博物館では、動物、植物、人類、考古の研究部門をもち、活発に研究活動が行われ、また一般に公開されている教育プログラムも豊富に用意されているそうです。私たちは、展示室だけでなく研究室や標本庫なども見せていただきましたが、研究室では小人数の子どもたちが床に座って研究者との会話を楽しみ、その脇で標本データベースの入力をしている老婦人がその会話に耳を傾けている光景を見て、アットホームな雰囲気にも包まれた教育活動の良さを感じました。また、ランチタイムには、職員の方々が私たちのために昼食会を用意してくださるなど心のこもった対応には深く感謝したいと思います。

⑥カリフォルニア科学産業博物館（ロサンゼルス）

サンタバーバラから2～3時間南下すると、西海岸最大にして全米第二の都市ロサンゼルスに入ります。ロサンゼルスではカリフォルニア科学産業博物館を訪問しました。

カリフォルニア科学産業博物館は、ロス地震の被害を受けたため、一部テントによる仮設の展示室での公開を余儀なくされていました。しかし、現在、新館を1997年に一般公開の予定で建設中で、その新館では「World of Life」、「Creative World」、「World of the Pacific」、「Worlds of Beyond」などの世界が展開される予定です。

教育プログラムについては、幼児から一般までを対象に

した幅広いプログラムを基に活動していますが、中でも特色があるのは学校の先生向けのプログラムで、週末の2日間、計16時間科学者やキュレーターによるトレーニングを行い、このプログラムを修了すると先生自身のクレジットが上がる（給料が上がる）システムがあることです。このシステムにより先生たちの積極的な参加があり、ひいては生徒たちをつれてここを訪れるメリットもあるそうです。

また、サイエンス・プレイスというコーナーでは、演劇じたてのサイエンス・ショーが、スペイン語系移民が多いロサンゼルスならではの、英語とスペイン語の2か国語で行われているということで、ちょうど私たちは、そのリハーサルを見学することができました。

また、展示室ではこどもたちがだぶだぶの白衣を着て、小さな科学者になりきって活動したり、展示室のスペースのいたるところが教室になっていもうようなかたちで教育活動が行われていました。

ここでも、エイズ問題や環境、特にリサイクル問題について、こどもたちにわかりやすい展示で取り上げられていました。展示は、凝ったディスプレイではなく、概ね素材が生かされながら丈夫に作られ、壊れにくいよう配慮されたものになっていました。最後に、ビデオ映像のアニメなどにこの館オリジナルのキャラクターが登場するので、その制作方法について尋ねたら、「ロスにはハリウッドがあるからね」と答えられ、ここが世界に冠たる映画産業のお膝元であることを再認識しました。



大きなゴミ箱(リサイクル展示)の前の小さな科学者たち

この視察研修では以上の博物館を訪問し視察研修を実施

してきましたが、参加者はこれらの訪問館の他に、それぞれのテーマを持ち、自主研修として博物館や水族館あるいは美術館などを精力的に見学してきました。

私は、この視察研修に参加して、はじめて海外の博物館のそれぞれがもつ独特な雰囲気を感じることができ、また、いままで間接的にあるいは断片的にしか得られなかったこれらの博物館等に関する知識を、自分自身の目で確かめられただけでも有意義だったと考えております。

(国立科学博物館・都川 匡史)

— 全科協情報 —

加盟館の企画展・特別展示のご案内

○トヨタ博物館、第13回特別展を開催

トヨタ自動車(株) トヨタ博物館(愛知県長久手町)では、4月19日(金)から7月14日(日)まで、「戦後 ヨーロッパ車の復興～アメリカを目標としたモータリゼーション～」をテーマに第13回特別展を開催します。

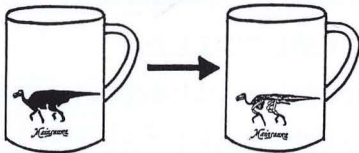
その概要は下記のとおりです。

— 記 —

1. 期 間 4月19日(金)～7月14日(日)
2. 場 所 トヨタ博物館 2階特別展示室
3. 所 在 地 愛知県長久手町(東名名古屋 IC、東名阪本郷 IC より東4km グリーンロード沿い)
tel 0561-63-5151
4. 内 容
 テーマ 「戦後 ヨーロッパ車の復興～アメリカを目標としたモータリゼーション～」
 展示品 モーリス・マイナー等 計12台
 1945年～1960年頃のカatalog、写真等
 戦後のイギリス車の模型(1/43)約20点等
5. 開館時間 9:30～17:00
 月曜日休館(祝祭日の場合は翌日)
6. 入 館 料 通常の料金で見学可
 大人 1000円・中高生 600円
 小学生 400円(団体割引あり)

詳細は、トヨタ博物館までお問い合わせください。

恐竜マグ



あたたかい飲みものを入れると
骨格図にかわります!!

株式会社 アンティー

TEL 03-3467-6555

FAX 03-3467-6568

- * ミュージアム・
ショップグッズ
の企画・製作・
販売 (マグカッ
プ、Tシャツetc.)
- * 特設売店の代行

〒151

渋谷区富ヶ谷1-17-9

パークハイム302



INTERIOR / EXTERIOR / DESIGN / EQUIPMENT

ONY KOBO CO., LTD.

東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園／水族館／博物館
企画・設計・施工

Practical Specimens for Study of Earth Science

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)
岩石薄片製作(材料提供による薄片製作も受け賜ります。)

大英博物館/恐竜復元模型

縮尺：実物の40分の1 精密教育用モデル、大英博物館製作による刻印入

TEL 03-3350-6725

上京時にはお気軽にお立ち寄り下さい。

[特に化石関係は諸外国より良質標本を多数直輸入し、力を入れておりますので教材に博物館展示等にぜひご利用ください。]



Fossils, Minerals & Rocks

株式会社 **東京サイエンス**

本社 〒150 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL 03-3350-6725 FAX 03-3350-6745
ショールーム 紀伊國屋書店新宿本店1F TEL 03-3354-9433

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場としてご活用
ください。資料や情報の提供、標本などの借用希望、事
業案内、ご意見、ご提案など皆様の原稿をお待ちしてお
ります。

編集後記

3月号の編集は、国立科学博物館が担当しました。
今回は、茨城県自然博物館の担当です。

ご期待ください。

感じる科学

動刻

▲恐竜ロボット
ティラノサウルス



▲人体型ロボット
コスモ博士(国研科学技術館)

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

kokoro 株式会社ココロ

〒205 東京都羽村市神明台4丁目9番1号

TEL 0425(30)3911(代)・3939(営業)

FAX 0425(30)3900・3927(営業)